



『ロザリーの秘密 ~ 夏の日、ジョニーを捜して ~』

それは暑い夏の2週間の出来事。いなくなった従兄のジョニーの行方は？
ロザリーが見つけた家族のあたたかさとの友情。



大好きないとこのジョニーがいなくなった!

それは暑い夏の2週間の出来事。
ロザリーの秘密とは？ ロザリーが見つけた真実とは？

一人の少女の成長物語であり、人と人との「つながり」の物語である。舞台は、1959年カナダのハリファックス。ロザリー・ノーマンは11歳の女の子。大家族の末っ子で、現在は父と母、すぐ上の姉と四人で暮らしています。

ある暑い夏の日、ママが、階段から落ちて足の骨を折る大怪我を。そんなとき、両親は、近所に越してきたばかりの少年デーヴィッドに庭仕事の手伝いを頼みます。子どもたちの間で「墓掘り」と呼ばれている一風変わった男の子が、自分の家で働くことに戸惑うロザリー。そこへロザリーの大好きな従兄のジョニーがいなくなって…。家族は何か隠しているよだと感じるロザリーですが、確信がありません。

あるとき、ひょんなことからデーヴィッドの協力を得て、2人でジョニー探しを始めることになるのですが、果たして二人はジョニーを見つけることができるのか？ロザリーの秘密の行方は？

子どもの視点から語られるこの物語は、大人にとってはハッとするほど魅力的な言葉にあふれています。11歳の、ちょっと大人びたところがある少女、ロザリーの語りには説得力があり、思わず引きつけられます。絵を描くこととマンガを読むことが何よりも好きな主人公、自分におこったことをマンガの場面に例えて説明するところはおもしろみがあります。登場人物が持つ独特の個性も、その台詞や行動に生き生きと描かれています。

ひと夏、それも2週間のあいだに起こった出来事を通して、家族の大切さ、真の友情、そして自分にとって世界で一番大切な場所を見つけしていきます。アットホームなぬくもりにあふれた雰囲気は、人と人との「つながり」の物語でもあります。現在社会ではおろそかになりつつある家族関係や人間関係などのあり方を見直すきっかけを作ってくれる優れた作品です。

発売日：2011年5月16日
(全国書店・ネット書店)

ジャンル：ヤングアダルト
読者層：中学生以上、大人が読んで楽しめる。

定価：1,200円+税(1,260円)
著者：ハドリー・ダイアー
訳者：粉川栄、三好玲子
出版社：バベルプレス
判型：四六版
頁：188ページ
ISBN：978-4-89449-114-4

【著者】著者紹介ハドリー・ダイアー (Hadley Dyer)

カナダのノバスコシア州、アナポリス・ヴァリーで生まれ育ち、現在はトロントに在住。長く児童文学の批評、広報、編集に携わり、カナダ児童図書館センターで図書コーディネーターとして活躍してきた。現在はハーバーコリンズカナダの児童文学編集責任者であり、また児童向・YA(ヤングアダルト)向けの作品を手がける。『グローバル・アンド・メールズ』に寄稿する傍ら、ライアーソン大学で出版課程の講師も務める。国際児童図書評議会カナダ支部の会長を務めた経験もある。本書の原書“Johnny Kellock Died Today”は2006年にダイアーのデビュー作として発表された。その他“Batter Up Baseball”(2007年)、“Watch This Space”(2010年)などがある。

【本件に関する問い合わせはこちら】

TEL:03-5211-3727 email:press@babel.co.jp

(担当:藪下)バベルプレス(株式会社バベル)HP:http://www.egaiasyoten.com/

Google

eガイア書店

検索

クリック!